

大崎のチーム堂々特別賞

全国小学生プログラミング大会

独自の発想に基づくプログラムで制作したアプリやロボットなどの出来栄を競う「2022年度全国選抜小学生プログラミング大会」が5日に東京であり、県代表として出場した大崎市のプログラミング教室に通う児童3人のチームが、審査員特別賞に選ばれた。

受賞したのは美里町青生小5年常見胡桃さん(11)、大崎市古川一小5年佐々木望翔さん(11)、古川三小5年伊藤俊亮君(11)のチーム「トリプルギャースートルズ」。

応募作品は車に搭載した超音波センサーが雨量を感じ、所



「浸水ふせポン」を手を笑顔を見せる(左から)伊藤君、常見さん、佐々木さん

車の浸水防ぐ装置 開発

有者に浸水の危険を知らせる装置で「車の浸水被害を防ぐ『浸水ふせポン』」と名付けた。大崎市を襲った昨年7月の記録的大雨で、車の浸水被害が多発した教訓を踏まえて開発し、県大会を突破した。

全国大会に向け、無料通信アプリ「LINE(ライン)」を使って通知と避難場所のリンクをスマートフォンに送れるよう改良し、通信距離の短さなど従来の受信機の課題を解決した。

本番の発表でも、目標として利用者の浸水データを集積したマップ作成、気象庁の降水予測から人工知能(AI)を使って浸水予報を出す構想を披露し、審査員から高い評価を受けた。

大崎市のNPO法人Synapse40(シナプスフォーティ)が開くプログラミング教室に通う3人。伊藤君は「発表は緊張して練習したことを忘れちゃった」と苦笑したが、佐々木さんは「努力が報われてうれしい」と笑顔。常見さんは「もうちょっと上が良かったけれど、いい賞が取れてうれしい。次回もまずは県大会優勝を目指す」と意気込んだ。

全国大会は河北新報社などが加盟する全国新聞社事業協議会が主催した。